

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞															
未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態 学校教育に加えて、子どもが社会で生きて行く力を育むための「社会教育」の機会が提供されている状態															
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）															
<ul style="list-style-type: none"> 天王寺区は全国学力学習状況調査では、区全体として大阪市平均を上回る傾向にある。 区内人口の約44%が40歳未満で子どもや子育て世代が多い。(平成27年国勢調査) (参考) 0～19歳人口割合は 24区中5番目：平成27年10月1日現在(平成27年国勢調査) <p>【平成29年度 学校基本調査】 中学校数 9校(24区中4番目) 中学校生徒数 5,141名(24区中2番目) 高等学校数 12校(24区中1番目) 高等学校生徒数 15,757名(24区中1番目) 高等学校生徒数は、市全体の約20%を占める。</p> <p>【待機児童数】 ・平成30年4月1日時点 天王寺区 0人 市全体 67人 ・平成29年4月1日時点 天王寺区 26人 市全体 325人(24区中3番目に多い) ・平成28年4月1日時点 天王寺区 27人 市全体 273人(24区中3番目に多い)</p> <p>【平成30年度第1回区民モニターアンケート】 防災やまちのにぎわいなど7つの事業分野のうち 子育て支援を優先する事業として捉える人が多い。 (1位)子育て支援 125人 (2位)防犯 97人 (3位)地域福祉・健康 95人 回答者数 478人 優先する事業分野を1位から3位まで選択、1位に選んだ人数</p>	<p>区内人口構成 (平成27年国勢調査による)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>16.9%</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>27.2%</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>28.2%</td> </tr> <tr> <td>60～79歳</td> <td>18.6%</td> </tr> <tr> <td>80歳以上</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>年齢不詳</td> <td>3.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	割合	0～19歳	16.9%	20～39歳	27.2%	40～59歳	28.2%	60～79歳	18.6%	80歳以上	5.8%	年齢不詳	3.3%
年齢	割合														
0～19歳	16.9%														
20～39歳	27.2%														
40～59歳	28.2%														
60～79歳	18.6%														
80歳以上	5.8%														
年齢不詳	3.3%														
要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）															
<ul style="list-style-type: none"> 教育に対する意識の高い保護者、地域と連携して、これまで努力してきた結果、私立の高等学校など多くの学校園が集積していると考えられる。 区において子育て施策・人材育成施策への期待度が高い。 															
課題（上記要因を解消するために必要なこと）															
<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの教育投資のさらなる促進。 社会教育の充実や子育て世帯の負担緩和など、地域特性を活かした未来を担う人材の育成の強化。 子どもの体験活動への参加機会が減少傾向にあることから、子どもや青少年が、様々な体験、世代を越えた交流の機会や地域でのつながりづくりなどを通じて、心身ともに健やかに成長できるような環境整備。 グローバル社会で生きていく力を養う学習機会の提供。 地域福祉の将来像を提示する「天王寺区地域福祉ビジョン」を策定。 															

<p>戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童対策については、新たに保育園も開設され、令和2年4月時点の待機児童は「ゼロ」となった。引き続き、全市的な取組と連携し待機児童「ゼロ」の継続をめざす。 子育てスタート応援券の交付や子育て情報博覧会の開催などにより、乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちなかであると感じる区民の割合は、年々増加傾向であり、子育て情報アプリの利用者や子育て情報博覧会参加者の満足度は高く、子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合も高いことから、今後も効果的かつ効率的な情報提供をめざす。 「日本一の文教『都市』」をめざし、区で取り組む未来を担う人材育成に関する事業は順調に執行できているが、参加希望者を対象としたものであり、区内児童・生徒全体の人材育成を効果的に進めるには、学校教育との連携をより一層すすめる必要がある。 そのため、学校長や保護者等から教育に関する課題・ニーズを聴取し、区で実施する人材育成に関する事業や、校長経営戦略支援予算(区担当教育次長執行枠)を活用した事業を、優先的に対処すべき課題・ニーズに有効に活用していくことが必要である。
--------------------------------------	--

めざす成果及び戦略 2-1 【地域の未来を担う人材の育成】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	<ul style="list-style-type: none"> 外国人とのコミュニケーション力を高めるとともに、外国の文化等についても理解・尊重できる学習機会が提供されている状態 自分の将来に役立つと感じる、子どもが社会で生きて行く力を育む質の高い教育機会が提供されている状態 居場所での学習や悩み相談等の支援が必要な子どもにサポートが届いている状態 未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態 子育てに必要な情報を必要な時に的確に発信できている状態 保育所待機児童が解消された状態の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生を対象に、グローバル社会に対応した学習機会を提供し、英語によるコミュニケーション力の向上のみならず、外国の文化・行動様式等、国際理解を深める。 年齢層に応じた社会教育機会の提供とあわせて、社会との関連を継続的に学ぶうえで重要である社会貢献ボランティア活動への参画支援。 乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供することにより、子どもの将来への投資の促進を図る。 きめ細やかな情報提供や、子育て支援施設・サービスの利用促進を行うことにより、子育て世帯の子育てに関する様々な悩みや不安の解消を図る。 認可保育所の拡充、小規模保育事業の実施など、あらゆる手法により、増大する需要を上回る保育サービスの量的拡充を行い、就労を希望する人が仕事と出産・子育てを共に選択できるよう取り組む。 天王寺区地域福祉アクションプラン子育て班の取組を推進する(子育て愛あいフェスティバル、天王寺区ジュニアクラブへの協力など)。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材育成事業参加者の満足度 90% 令和3年度 自分の将来に役立つと感じるイノベーション人材育成事業参加者の割合 90% 令和3年度 居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 70% 令和2年度 乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合 80% 令和3年度 子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合 90% 令和3年度【重点目標】 保育所待機児童が解消された状態の継続 	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度 個別 全体		
	グローバル人材育成事業参加者の満足度 91%		92%	A	—
	自分の将来に役立つと感じるイノベーション人材育成事業参加者の割合 60%		80%	B	
	居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 71%		92%	A	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合 68.2%		62.7%	B	
	子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合 86.8%		83.0%	A	—
保育所待機児童数 0名		1名	A		
A: 順調 B: 順調でない					
戦略の進捗状況	b	a: 順調 b: 順調でない			

具体的取組 2-1-1 【グローバル人材の育成（グローバル人材育成事業）】

		29決算額	2,859千円	30予算額	2,340千円	元予算額	2,318千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<p>小・中学生を対象に、海外の文化・行動様式に対する理解を深めるとともに、文化や価値観も異なる外国人に対し、英語をお互いの共通語として積極的にコミュニケーションを行う体験をつうじて、英語を国際共通語として海外に挑戦し活躍できる人材の育成を図る。</p> <p>グローバル人材育成事業（多文化・国際理解教室 4回）</p>	<p>・グローバル人材育成事業参加者の満足度 90%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>平成30年度 多文化・国際理解教室 4回 ※達成状況 92%</p> <p>平成29年度 英対話講座(中学生) 4回 英語体験活動(小学生) 4回 ※達成状況 英対話講座 78% 英語体験活動 93%</p> <p>平成28年度 ディベートスクール(中学生) 8回 英語体験活動(小学生) 2回 成果発表会 1回 ※達成状況 ディベートスクール 100% 英語体験学習 93%</p> <p>平成27年度 ディベートスクール 12回 国際交流カフェ 6回 成果発表会 1回 ※達成状況 ディベートスクール 94%</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>	—	—				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	多文化・国際理解教室 4回	—					
	プロセス指標の達成状況						
	グローバル人材育成事業参加者の満足度 91%	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 2-1-2 【イノベーション人材の育成(中学生キャリア教育)】

		29決算額	417千円	30予算額	273千円	元予算額	273千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	区内中学校と連携し、育んだ知力・学力が社会で生かされるものとなるよう、仕事において必要とされる力について、学び・体験する様々な機会を生徒に提供し、未来の大阪・日本においてイノベーション(新たな仕事をづくり出す、今ある仕事を変革させる等)を起こせる人材の育成をめざす。 企業家ミュージアム等での学習支援 ・イノベーションを起こせる人材を育成するため、公立中学生を対象に大阪で活躍した企業家の事績を通じて”起業家”の生き方を知り、社会で必要となる力について学ぶ。 参加者 公立中学1年生または2年生 計3回(各校1回) 職業講話 ・社会の第一線で活躍する企業家の話を聞き、自ら関心のある分野の理解を深めるとともに、仕事を創り出す大切さ、社会で必要となる力について学ぶ。 中学校への講師派遣 3回 職業体験 ・学校では学ぶことのできない社会で必要となるスキルを養うため、企業・事業所等の現場にて職業体験を積み、社会で生きていく力を養う。 中学校への職業体験受入先紹介等	自分の将来に役立つと感じる参加者の割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。 前年度までの実績 平成30年度 企業家ミュージアム等での学習支援 2回 ※達成状況 80% 職業講話 3回 ※達成状況 79% 平成29年度 中学生キャリア教育 2回実施 ※達成状況 76% 職業講話 参加者 29名 ※達成状況 82% インターンシップ 参加者 20名 ※達成状況 90% 平成28年度 インターンシップ 参加者 14名 ※達成状況 100% 平成27年度 インターンシップ 参加者 14名 ※達成状況 100%					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	—		—			
自己評価	当年度の取組実績	企業家ミュージアム等での学習支援 1回 職業講話 5回 職業体験 テンサボ登録企業など受入先を紹介		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 企業家ミュージアム等での学習支援については、中学校の土曜授業の減少等により取り組むことが困難である。			
	プロセス指標の達成状況	自分の将来に役立つと感じる企業家ミュージアム等での学習支援参加者の割合 未測定(11月に学校の教育活動として実施しており、中学生のキャリア教育に寄与していると思われる) 自分の将来に役立つと感じる職業講話参加者の割合 60%		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 企業家ミュージアム等での学習支援については見直すこととするが、引き続き区内中学校との連絡調整を密にし、各校で行うキャリア教育と連携した取組を進め、中学生の学び・体験できる機会を増やす。			
	戦略に対する取組の有効性	イ		—			

具体的取組 2-1-3 【次世代の地域担い手の育成】

		29決算額	238千円	30予算額	302千円	元予算額	278千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	《天王寺区ジュニアクラブ活動》 学校・家庭・地域との協働により、小学校4年生から中学・高校生を対象に、地域行事へのボランティア参加や施設体験などを行う天王寺区ジュニアクラブの活動を支援する。 活動 年5回	活動の趣旨(ボランティア等)が理解できた会員 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。 前年度までの実績 平成30年度 活動回数 年5回 ※達成状況 89% 平成29年度(今後も活動(ボランティア等)に参加したいという会員) 活動回数 年5回 ※達成状況 100% 平成28年度 活動回数 年5回 ※達成状況 96%					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	—		—			
自己評価	当年度の取組実績	ジュニアクラブ活動回数 4回(第5回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況	活動の趣旨(ボランティア等)が理解できた会員 100%		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	戦略に対する取組の有効性	ア		—			

具体的取組 2-1-4 【こどもの居場所等における学び・生活サポート(こどもの貧困対策)】

		29決算額	— 円	30予算額	1,010千円	元予算額	1,010千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	民間(居場所設置者)の協力を得ながら、「居場所」での活動を、市でも課題とする学力向上・精神面の支援につなげるため、区において居場所での学習支援・生活相談に応じるサポーターの活動を支援する。 学び・生活サポーターが活動する居場所の拡充	居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 40%未満の場合には事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 71%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	居場所での学習・生活相談のサポートを受けて、改善したと感じる子どもの割合 71%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					

具体的取組 2-1-5 【子どもの将来のための投資の促進】

		29決算額	9,877千円	30予算額	9,116千円	元予算額	12,885千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	天王寺区に生まれた子どもを持つ家庭を対象に、乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供する仕組みとして子育てスタート応援券(クーポン券:10,000円分)を交付する。 (令和元年度新規対象者数 804名)	子育てスタート応援券の利用率(人数ベース) 2歳到達者 75%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	② (i)					
	子育てスタート応援券の利用率(人数ベース) 73.6%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	プロセス指標の達成状況	② (i)					
	子育てスタート応援券の利用率(人数ベース) 73.6%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					

具体的取組 2-1-6 【子育て世帯の支援体制の充実】★

		29決算額	1,282千円	30予算額	1,396千円	元予算額	1,404千円
計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 虐待担当者・保育士・家庭児童相談員・保育コンシェルジュのチームが、保健師や栄養士と連携し、こどもの心身の発達・性格行動・しつけ等のさまざまな相談への対応、専門機関や保育所・幼稚園を含む地域の子育て資源に関する情報提供を随時行う。 保育コンシェルジュ(2名)が、区民にインフォर्मを含めた様々な子育て資源情報の提供、出張相談を行うとともに、地域の他機関との連携の強化や情報交換を行う。 スマートフォン等の情報端末に対応した天王寺区子育て情報アプリ「ぎゅっと！」により、子育てに必要な情報(区内の保育園や幼稚園、医療機関、イベント情報等)を養育者に随時配信する。 子育て支援施設やサービスの利用促進を図るため、子育て支援機関が子育て世帯に直接取組内容を説明する場を提供する「子育て情報博覧会」を年1回開催する。 市民サービスの向上を図るため、保健福祉課専属のフロアマネージャーを置き、来庁目的を聞き取ったうえ円滑に窓口案内する。 	<p>プロセス(過程) 指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ 利用者満足度 80%以上 子育て情報博覧会 参加者の満足度 90%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ 利用者満足度が50%未満の場合、事業を再構築する。 子育て情報博覧会 参加者満足度が60%未満の場合には事業を再構築する。 <p>前年度までの実績</p> <p>平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ ※達成状況 97.3% 子育て情報博覧会 平成30年8月実施 272世帯参加 ※達成状況 91% <p>平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ ※達成状況 94.8% 子育て情報博覧会 平成29年8月実施 287世帯参加 ※達成状況 91% <p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ 機能強化(ホーム画面設置) ※達成状況 94% 子育て情報博覧会 平成28年8月実施 190世帯参加 ※達成状況 94% <p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ 機能強化(ツイッター連携、検索機能改善) 子育て情報博覧会 平成27年9月実施 165世帯参加 ※達成状況 88% <p>平成26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て情報アプリ 平成27年2月配信開始 子育て情報博覧会 平成27年2月実施 141世帯参加 ※達成状況 65% 					
	<p>中間振り返り</p> <p>プロセス指標の達成状況 ① (i)</p> <p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成</p> <p>戦略に対する取組の有効性 —</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>					
自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <p>児童相談件数 500件 子育て情報アプリ「ぎゅっと！」の通年配信 子育て情報博覧会の開催 1回 保健福祉課専属のフロアマネージャーを配置 1名</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>					
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>子育て情報アプリ 利用者満足度 97.3% ① 子育て情報博覧会 260世帯参加、参加者の満足度 92% (i)</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成</p> <p>戦略に対する取組の有効性 ア</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>					

具体的取組 2-1-7 【保育サービスの充実】

		29決算額	— 円	30予算額	— 円	元予算額	— 円
計画	当年度の取組内容 全市を挙げた待機児童対策の取組みの中、こども青少年局と連携しながら、主体的に保育所充実に向けた取組を進める。	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 保育所待機児童が解消された状態の継続 【撤退・再構築基準】 保育所待機児童が解消されなければ、事業を再構築する。					
		前年度までの実績 平成30年度 平成30年4月1日時点待機児童数 0人 ・保育所本園開設 4園(30.4.1(2園) 30.8.1 30.10.1) ・小規模保育事業所の開設 1カ所(30.4.1) 平成29年度 平成29年4月1日時点待機児童数 26人 ・保育所本園開設 1園(29.4.1) ・小規模保育事業所の開設 2カ所(29.4.1 29.12.1) 平成28年度 平成28年4月1日時点待機児童数 27人 ・保育所本園開設 1園(28.4.1) 平成27年度 平成27年4月1日時点待機児童数 11人 ・保育所本園開設 1園(28.2.1) 平成26年度 平成26年4月1日時点待機児童数 21人 ・保育所本園開設 1園(26.4.1) ・小規模保育施設の開設 1カ所(26.11.17)					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	—	—				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の実績 こども青少年局と連携しながら、主体的に保育所充実に向けた取組を実施 ※参考 ・保育所本園開設 2園 ・小規模保育事業所の開設 1カ所	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況 令和2年4月1日時点での待機児童数 0人	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	—	—				
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				